

# 参加の皆さんへ

顧問の先生を交えて、チーム全員で必ず読み合わせて下さい。

## 1. 試合の組合せについて

組合せに当たっては、春の高体連都大会の個人戦（シングルス・ダブルス予選SF以上）と団体戦（ベスト56以上）、都立個人戦（シングルスベスト8以上）の成績を参考にしました。

## 2. 試合方法及び諸注意

### (1) 集合・点呼

- ① 試合の会場・日時を別紙の組合せ表で確認すること。
- ② 指定時刻までに選手全員がプレーできる服装になって出席を届け、オーダー票を提出すること。
- ③ 出席の際は選手全員が学校発行の身分証明書を提示すること。
- ④ 指定時刻までに引率顧問および4人以上選手がそろわないときは失格となる。
- ⑤ 受付で未使用のボール5缶を提示しチェックしてもらうこと。未使用のボール5缶がない場合は失格となる。

### (2) ウェア

- ① 選手はテニスウェアを着用すること。ウェアの規定は高体連の規定に準ずる。試合中のウォームアップスーツの着用は不可。
- ② 19.4平方cm以下（円形ならば直径約4.9cm、正方形なら一辺約4.4cm以内）のものに限って「表示物（学校のロゴも含む）」の付いたウェア、帽子等の着用は可。
- ③ 表示物を隠すために、着衣類を裏返して着用したり、違反部分にガムテープ等を貼ったりすることを禁止する。
- ④ 以上の規定に反した選手は、コートレフェリーに交換を求められ、それに応じられない場合は失格とする。

### (3) オーダーと試合順

- ① 作戦オーダーは認めない。ダブルスは、登録選手内のどの組み合わせでもよいが、登録名簿で上位の選手が入るペアがダブルスNo. 1となる。（例えば、登録順位1位と8位のペアと、2位と3位のペアとでは、前者のペアがダブルスNo. 1となる。）
- ② 試合の順序は、ダブルスNo. 1→No. 2→シングルスNo. 1→No. 2→No. 3。 休息のためにこの順序を変更するようなことは認めない。
- ③ 対抗途中でのオーダー変更は認めないが、勝敗決定時点で、コートレフェリーと相手校の了解があり、登録順位とオーダー順位に問題がない（登録順位の高いものが上位）ときに限り、新たに入るS2、S3のオーダーを変更して試合ができる場合がある。

### (4) 試合形式・審判

- ① 決勝も含めすべて6ゲームの1セットマッチ（6-6 7ポイントタイブレーク）とする。
- ② 審判はつけず、全試合セルフジャッジとする。

### (5) ウォームアップ

ウォームアップは3分以内とする。 サービス4本とストローク3～4本程度。

### (6) 応援・ベンチコーチ等

- ① 応援はコートレフリーの指示に従うこと。フェアプレーの精神を忘れずに、相手選手にプレッシャーをかけるような言動が続いた場合、コートレフリーの判断でペナルティーを課すことがある。
- ② プレー中に声を出して応援やアドバイスと判断される言動は慎むこと。
- ③ ベンチコーチは登録監督または登録選手の1名のみが認められる。また、ボールパーソンは不可とする。
- ④ 電源を切らない移動式通信機器のコート内持ち込みを禁止する。試合中（ウォームアップも含む）移動式通信機器が作動し、警告後繰り返した場合はその選手を失格とする。

## (7) その他

- ① 団体戦は第1ゲーム終了後に休憩がとれる。（ベンチコーチからアドバイスを受けることができる）。タイブレーク中のエンドチェンジの際、水分補給はできるが休憩はとれない（ベンチコーチのアドバイスも不可）。
- ② 熱中症予防対策として、ポイント間でも25秒以内なら水分補給を認める。ただし、けいれんや体力消耗を理由とした休憩は認められない。
- ③ 試合後、勝者校が次回戦のために未使用のボール5缶を敗者校から受け取り、敗者校が使用したボールを持ち帰ること。
- ④ 初回戦は勝敗が決しても5試合行うことを原則とする。ただし、1対抗2時間30分を越えた場合は、勝敗決定時点で会場校の判断により対抗を打ち切る。2回戦以降は勝敗が決した時点で打ち切ることを原則とする。
- ⑤ 貴重品の管理、ラケットなどの紛失に十分に注意すること。ゴミや空き缶等は各自の責任で持ち帰ること。
- ⑥ 写真・動画を撮る場合は、必ず対戦相手と本部から許可をもらうこと。
- ⑦ 大会期間中は猛暑が予想されるので、「熱中症対策ガイドライン」をよく読んでおくこと。
- ⑧ 会場校の迷惑にならないよう、試合後のミーティング等は必要最小限にとどめ、速やかに下校すること。

## 3. 試合日程・試合結果について

雨天等により予定通り試合が消化できなかった場合については、実行委員会において判断のうえ、その後の日程をホームページで発表します。また当日勝ち残っているチームの速報や、大会結果詳細（大会終了後）など、重要な資料はホームページに掲載します。URL <http://www11.plala.or.jp/toritsu-tennis/>

## 4. 会場校の先生方に

- ① 出席点呼は、必ず全員をそろえて行って下さい。
- ② 提出されたオーダーをプログラムの登録名簿と必ず照合して下さい。
- ③ 生徒の安全・健康を考え18時以降に新たな試合は入れないようにして下さい。
- ④ 対戦結果、勝ち上がり校はメールにてお知らせ下さい（詳細別紙）
- ⑤ 記録用紙等は勝ち上がり校に託すなどして、翌日の会場校へ集中させて下さい。
- ⑥ 会場校用の掲示物を作成しました。HPにアップしますので、適宜ご活用ください。

## 5. 参加校の顧問の先生方に

今年度の大会は、男子133チーム、女子104チームが参加する大会となりました。また、31校からコートの提供を頂きました。本当にありがとうございます。

本大会は真夏の炎天下で、白熱した試合を連続して数試合戦わなければならないことが予想されます。選手に思わぬ事故が起こらないよう、万全の備えが必要です。また、熱中症等の関係で、顧問（または校長から委嘱された部活指導員）の引率が必須となっております。引率は日替わりでも構いません。男女の会場が別々で大変だと思いますが、よろしく願い申し上げます。なお、関係者の会場への自動車の乗り入れ・会場校への電話での問い合わせは厳禁となっております。

本大会が各都立高校テニス部の練習の成果を発揮する場となり、多くの高校生の感激の場となることを祈願いたします。

令和5年度 都立対抗テニス大会 大会会長 都立日野台高等学校 森田 正男  
世話人代表 都立田無高等学校 加藤木 操 坂本 侑輝  
都立東大和高等学校 高尾 晃

## 2023 年度都立対抗テニス大会での審判について

今年度の都立対抗テニス大会では、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、審判員を立てず、セルフジャッジで進行することとなりました。以下の内容を選手・監督の先生ともにご確認いただき、大会に参加してください。

### ●セルフジャッジ5原則 ※ 試合におけるフェアプレーの推進 から抜粋

- I 判定が難しい場合は「グッド（イン）」として相手プレーヤーを有利にしよう！
- II 「アウト」「フォールト」は、ボールとラインの間の空間がはっきり見えたときのみコールしよう！
- III サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスしよう！
- IV ジャッジコールは、相手に聞こえる声と相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに！
- V コート外の方は、セルフジャッジへの口出しはしないこと！

### ●セルフジャッジの方法 ※ JTA ルールブック から一部抜粋

- ① サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- ② ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時(オンライン)、ボールとラインの間に空間が見えなかったとき、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド（イン）」としてプレーを続ける。はっきりとボールとラインとの間に空間が見えた時は「アウト、フォールト」とコールする。
- ③ 判定のコールは、相手にはっきりとわかる声とハンドシグナルを使って、速やかに行う。  
《代表的なハンドシグナル》  
アウト・フォールト：人差し指を上げる  
グッド(イン)：手のひらを地面に向ける
- ④ クレーコート以外では、相手プレーヤーにボールマーク(落下地点)の確認要求はできない。
- ⑤ プレー中に、他のコートからボールが入ってくるなどの妨害が起こった場合、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。レットのコールに関しては、両者どちらもコールすることができるが、以下の点に注意すること。  
《レットに関する注意事項》
  - ・ レットがコールされる前に打たれたボールが、コート内に正しく入らなかった場合、そのボールを打ったプレーヤーは失点する。
  - ・ レットがコールされる前に打たれたボールが、明らかなウィニングショットまたはエースになった場合、そのボールを打ったプレーヤーの得点となる。
- ⑥ スコアがわからなくなった時は、双方のプレーヤーは、合意ができるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ゲームスコアも同様に処理するが、再開する場合は、同プレーヤーが2回連続でサーバーとはなれない。

⑦ ダブルスの判定とコールは、プレーヤーの 1 人が行えば成立する。ただし、ペアの判定が食い違った際、直ちに訂正した場合は、1 回目限り故意ではない妨害としてポイントレットとする。2 回目以降は、そのポイントは失点となる。サービスでのコールの食い違いは、レットとなる。

※ シングルの判定とコールに関しても上記と同様とする。

⑧ ネットタッチ, スルー(ネットの切れ間からボールが通過), ノットアップ(2 バウンドで返球)について  
・両プレーヤーがコールできる。判定が食い違った場合、コートレフェリー(会場校の先生)を呼び、確認してもらう。確認できない場合はレットとなる。

⑨ フットフォールトについて

・コートレフェリー(会場校の先生)を呼び、確認してもらう。

⑩ インプレー中での落下物について

・インプレー中にプレーヤーがラケット以外の着衣や道具(帽子・ボール等)を地面に落とした場合、1 回目は「ポイントレット」、2 回目以降は、「落とした選手の失点」となる。このコールに関しては、落とし物をした選手は、コールできない。

⑪ タイムバイオレーション(遅延行為)

・ポイント間(25 秒)、エンドチェンジ間(90 秒)が著しく過ぎている場合、コートレフェリーを呼び確認してもらう。

⑫ 対戦相手からの故意の妨害について

・妨害を受けた側のプレーヤーからの申し出により、コートレフェリーが判断する。

上記をよく読んでいただき、公平なジャッジコールでの試合進行をお願いいたします。

2023年 7月9日  
東京都立高等学校テニス連盟

## 「都立対抗テニス大会開催に向けた熱中症対策ガイドライン」について

### 【はじめに】

本ガイドラインは、(公財)日本スポーツ協会が発出したガイドラインに沿って、熱中症対策のための留意点についてまとめたものです。

熱中症に関しては、ここ数年の猛暑の経験から、各校十分対策が取られていることと思いますが、今年度は新型コロナによる部活動制限等によって、例年より大会に向けた準備期間が短く、熱中症の危険も大きいと案じております。

そこで、既知のこととは思いますが、もう一度簡潔に対策をまとめておきますので、十分な対策を取るようお願いします。

### 【熱中症対策】

#### (1) 参加するにあたって

- ① 急な暑さは熱中症の原因になります。大会前に暑さに慣れるようにしていきましょう。
- ② 失われる水分と塩分を取り戻すために、こまめにスポーツドリンク等を飲むようにしましょう。のどが渴いてからではなく、必ず運動前にも飲むようにしましょう。
- ③ ウェアは吸湿性や通気性がよいものにしましょう。直射日光がある場合には帽子を着用しましょう。
- ④ 体調が悪いと体温調節能力も低下し、熱中症につながります。体調が悪いときは絶対無理せず、試合出場を控えてください。
- ⑤ できるだけ各自でクーラーボックス等を用意し、冷タオルやアイスパックなどで体の熱を取る工夫をしましょう。

#### (2) 会場校の対応

- ① できるだけ日陰の場所を確保できるよう工夫してください。
- ② 熱中症になった場合の救急処置として、身体冷却ができる冷タオルやアイスパック等の準備をお願いします。ただし、使い回しは感染症予防対策のガイドラインに抵触しますので控えるようお願いします。
- ③ 高体温、意識障害(応答が鈍い・言動がおかしい)などの重傷な病型である熱射病が疑われる場合は救急車を要請してください。

## 選手が痙攣して動けなくなった場合の扱いについて

25秒経過後 1回目の警告

更に25秒後 ペナルティ 1ポイント

更に25秒後 ペナルティ 1ゲーム

以下25秒経過ごとに ペナルティ 1ゲーム